

# 城北



平成 28 年 1 月 1 日 現在	
総世帯数	3,503
総人口	7,667
男	3,647
女	4,017

## 見聞地区 蟻ヶ崎北町会 畑の中に生まれた町

厚生・防災・体育・文化・育成  
公民館活動の充実を目指して

### 投票で決まった町名

戦後の混乱からの復興が各地で進む中、松本五十連隊射撃場跡（現沢村公園）と松本深志高校北の農地に県が住宅地を造成し、昭和31年に8世帯が初めて入居したのが町会のルーツです。昭和34年4月1日に蟻ヶ崎東町会から120世帯が分離するとともに町



昭和22年 米軍撮影

名を決める町民投票を行い、この地に蟻ヶ崎北町会が発足しました。

その後、入居者も順調に増えて、子ども会行事は、公民館からはみ出る子らもいるほどでした。また、青山様・ぼんぼんは大勢が列をなし、射撃場跡地に作られる三九郎の塔は見上げるほど高く壮大でした。



愛光苑付近より

### 町会活動に力点を

少子高齢化が進む中、町会では毎月定例会部長会を開き、催事はじめ各行事の計画・打合せなどが話し合われています。話し合いの中では参加者の減少で途切れていたソフトボール大会や町内運動会を復活させる一方、子どもからお年寄りまで中広い年代の町民が気軽に参加できるようにと三世交代交流軽スポーツ大会を開くなどしています。こうした催しには、町内にある信大こまくさ寮の学生たちもボランティアで参加し、交流を深めています。また、お年寄りお助けたいの「レスキュー蟻北」は、この町の特徴で、庭の草取りや

枝木の剪定、雪かきなどの活動をしています。このほか、昭和40年から続く長寿会、文化部（15）体育部（6）のクラブ活動は連日のように公民館を拠点に行われています。

### 防災の充実と啓蒙活動

活断層が集中するといわれる町内には、更に未知の活断層があるとの説もあって防災には敏感です。昨年9月の防災避難訓練には300人余りが参加し、市の担当者による講演会を開くなど啓蒙活動も高いた町会員の防災意識も高い町です。

### 元氣よく！ ひとば事業

#### 井戸端会議

地域の人たちが気楽に集まって、お茶を飲みながらおしゃべりできる場所があったらいいな、ということから始まった井戸端会議ですが、もつともっと楽しんでもらおうと、今年も新しい企画がいくつかあります。

#### お正月企画

♪三味線と端唄弾き唄い♪  
1月7日、ひろばにツン・テン・シャンと艶やかな三味

線の音が響きました。演奏者は松田榮子さん（深志ヶ丘）と師匠の秀由端さんと秀由郎さんです。「梅は咲いたか」「柳の雨」など12曲を披露しました。

また、「北国の春」「ストロベリー」は、三味線の音に合わせてみんなで歌い、演奏者と会場が一体になりました。和やかな雰囲気になりました。アンコール曲は端唄の中にどどいつを盛り込んだ曲で、50人の出席者は、プロのパチさばきに聞き入っていました。

その後演奏者も交えてのお茶会になり「素晴らしかった。お正月らしい良い雰囲気でした」「三味線を生で聴く機会なんてめったにないことで、本当によかった」などと話して花が咲いていました。2月は松本看護学校の生徒さん40人との交流会を予定しています。



城北公民館ひろば



# いろいろな松飾り

## ソバ打ち任せろ 城北公民館で講習会



松本市役所の蕎麦打ちの同好会・蕎麦食人会のメンバー 8 人を講師に 11 月 28 日城北公民館で開かれました。

参加者は、男女合わせて 16 人で、始めにメンバーの黒田明浩城北地区センター長らが小麦粉二、そば粉八の二八ソバの打ち方を実演しました。

ソバは、大きな鉢に粉を入れてこねる水回しから始まり、長い麺棒で薄く伸ばす、伸ばした麺をたたんで大きな包丁で細く切る、の順です。

参加者は、マンツーマンで講師のアドバイスを受けながら 1 時間をかけてようやく仕上げました。そして、水加減や伸ばしが難しかった、包丁

が重かったなど、出来上がった太かったり細かったりするソバを見せ合いながら感想を述べていましたが、講師の「初めてとは思えないほど上手にできました」との評に気を良くしていました。

最後に講師が打ったソバを試食しましたが「やはり職人が打ったソバは違う」と味わっていました。

この日打ったソバは、それぞれ夜の食卓を賑わしたという事です。

年の暮、12 月 23 日沢村町会では、子ども会、PTA の参加によるもちつき会が開催されました。ウスとキネは、今年度、城北地区子ども会育成会が地区の子ども会や、いろいろな行事で使ってもらおうと購入したものです。

沢村町会が一番組に名乗りをあげ、大人 34 人子ども 37 人が参加しました。公民館の近くに住む竹内基一さんの家では、毎年自宅で家族、親戚がそろってキネもちをついていたりということで、蒸しから、ねり、手返しまで順序よく手伝ってくれました。

子どもたちには、もちになつてきてから子ども用のキネが渡され「よいしょ」の掛け声とともにもちつきに参加です。幼稚園以来キネを持つのは久しぶりと言う 4 年生の男子は「軽かったけどうまくつけなかった」などと楽しんでいました。つきあがったおもちも、大人と子どもが一緒にあんこ、きな粉、ゴマ、大根おろしにまぶし、早速子どもたちにも振る舞われました。

6 年生の男子のひとりには 15 個を、3 年生の女子は 7 個食べ、たのが最高とお腹をさすり満足そうでした。もちをつき、昔の音に近所の人も顔を出し、昔のもちつきの話に花が咲き、もちつきを通して世代間交流の輪が広がっていくことは素晴らしい事ですね、と話していました。

## もちつき会 ほのぼのは美味し

